

茨城NPO情報

MONTHLY COMMONS

茨城のNPO活動を応援する月刊情報紙

...巻頭コラム・NPOのひとびと・トピックス

...NPO一日体験・情報掲示板・五軒町だより・あとがき

第19号

2004.5

特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コムンズ
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町2-2-23生野ビル102号
Tel 029-300-4321 Fax 029-300-4320
URL: <http://www.npocommons.org>
E-mail: info@npocommons.org

移送サービス連絡会発足

コラム

市民団体等が行う福祉車両や自家用車で移動困難者を対象とした移送サービスについては、数年前から法制化の必要性を巡って議論がされていましたが、この春大きな動きがありました。

3月に国交省からガイドラインが出たのですが、その主なポイントは、車はリフトカー等のほか自家用車でもよいこと、行政、運輸局やバス・タクシー業者の代表等で構成する運営協議会の承認が必要であること、運転手は内部研修を行い公安委員会等が実施する特定任意講習等を受けることです。

市民団体等によるサービス提供が法的に認められた反面、制約も出てきました。今後私たちにとっては、の運営協議会をどう形成するかが鍵になると思われます。協議会には市民団体等の代表も加わることができます。他業者との関係のなかで、移動困難者の外出を保証する移送サービスの意味(社会的リハビリ、生きがい作り、移動の権利保障など)を浸透させるのは私たちが果たす役割でしょう。

そこで、ニーズを持つ人の視点から適切な形でサービスを行える環境づくりを進めるため、県内で移送サービスを行う団体の連絡会が発足しました。今後の動向に是非ご注目下さい。

(文 理事 鈴木雅弘)

茨城県認証NPO法人

199 (4月28日現在)

内閣府認証県在NPO法人

49 (3月31日現在)

「共育」が育む、心のつながり



特定非営利活動法人 水戸共に育つ会 大内千裕さん

NPOのひとびと

介助員制度が水戸で漸く実現

水戸共に育つ会ができたのは2年前の春。発達障がいをもつ次男を地元の普通小学校に通わせたいと思った谷中さん(現水戸共に育つ会代表)が、学校から親の付き添いを求められたのがきっかけ。養護学校よりも、兄弟や近所の子が通う小学校で様々な人にふれあうことがこの子にとって良いと思い選択したが、当時の水戸市には学校介助員の制度はなかった。そこで谷中さんは、県内の他の自治体の介助員制度を調べ、水戸市でも実施してほしいと議会に陳情。自らは水戸共に育つ会を設立し、付き添いボランティアの募集と派遣を始めた。会では、多くのボランティアの協力を得て、これまで市内の2つの小学校に毎日のよ

うに付き添いボランティアを派遣してきた。この春には水戸市でも、介助員を配置するための予算がついた。

大内千裕さんは、会ができた頃、障がい者を対象にした歯科衛生士の仕事をしたいと名古屋から茨城に越してきた。やがて会に出会う。仕事をしながら週末をつかってその活動に。NPO法人化では中心的な役割を果たすなど、代表の谷中さんを支えてきた。

ライフテーマは言葉とそれを伝える口

大内さんは名古屋にいた頃から知的なしょうがいを持つ人々と活動していた。その原点はヘレン・ケラーにあったという。高校時代から演劇をしていて表現や言葉に関

心をもっていた大内さんは、ヘレンが言葉を獲得する時、サリバン先

生がヘレンの口を手を入れ発声の仕方を教えたことに驚き、言葉を伝える器官である口に興味をいだく。歯科医院でアルバイトをして、その後歯科衛生士の専門学校に入る。知的なしょうがいを持つ人の親の会が主催したガイドヘルパーのボランティア講座に参加したら、受講者有志で活動組織を立ち上げることになり、NPO法人設立も経験。知的なしょうがいを持つ人々と活動するのだからと、読みやすい表現をつかったオリジナルの定款をつくったが、県の担当に受け取ってもらうには苦労したとのこと。そんな活動をしていた時、障がい者の口腔衛生の仕事が茨城にみつかり、彼女は名古屋を離れる。

水戸共に育つ会には、障がい児をもつ親、学生、教師、雑誌の記事をみて参加した主婦など、様々

「共育」 共に育つこと。「水戸共に育つ会」は、障がい児と健常児が共に育つ場づくりをしている。育ったならば、やがて「共生」の社会をつくっていこう。「水戸共に育つ会」副代表として活躍する、大内千裕さんを紹介する。

な人が100名以上関わっている。経験、活動できる時間、会への想いなどが様々な中で、メンバー間で温度差が生じたり、想いがぶつかることも。そんな局面を乗り越えてこられた秘訣は「人それぞれなので、ちがいをみとめる」ことだと大内さんはいう。

着実に成長していく子どもからパワーをもらった

言葉はないが、自分を受け入れ、スリッパを並べてくれるようになった子どもの心の育ちが嬉しいという。学校現場では、子どもたちが支え合い、育ち合っている。「私たちの活動は、障がいをもった子どもや親のためだけに行っているのではなく、子ども同士、親、学校の先生、地域が支え合い、共に育てる環境をつくっていくこと」と大内さん。共育を根づかせるためには、制度だけでなく多くの人の理解と協力が要るが、大内さんに気負いはない。人とつながるためには、まず心をひらくこと。子どもとの関わりの中でそう実感しているのだらう。

(文と写真 横田能洋 斉藤崇徳)

NPO法人 水戸共に育つ会
〒311-4146 水戸市中丸町544-2
Tel 090-9317-5979
E-mail: mitotomo2003@ezweb.ne.jp

TOPICS

地域福祉プロモーター養成講座

第一期生86名が無事修了

少子高齢型社会の今、地域ではみんなが安心して暮らせるまちづくりがもたらされており、この課題は行政だけでは解決出来ません。そこで、県厚生総務課と県内の福祉系NPO等と協力し、自分発の福祉に取り組みたい人を支援しようと講座を開きました。講座を通じて自分の地域だけでなく県内各地で同じ悩みや思いを持つ人を繋ぐネットワークを作り、広い視点で考えられるプロモーターを養成。今回の講座では第一期生プロモーターとして86名が修了しました。県内全域にわたる人材であり、今後の地域の底力として福祉の推進に大きく貢献するものと期待されます。

第一期講座の活動実績は以下の通りです。住民福祉の講義と地域課題を見つけるワークショップ

(1月10日(土)、水戸市福祉ボランティア会館、参加(一般含む)99名)

福祉現場実習(1月11日(日)～30日(金)、参加延べ113名) 宿泊研修(1月31日(土)～2月1日(日)、県立中央青年の家、参加延べ69名)

地域で役立つ講座(2月～3月) 県央2月21日(土)、水戸市福祉ボランティア会館、参加(一般含む)56名 県北2月29日(日)、高萩市総合福祉センター、参加(一般含む)36名 鹿行3月6日(土)、玉造中央公民館、参加(一般含む)70名 県南3月13日(土)、阿見町中央公民館、参加人員(一般含む)37名 県西3月14日(日)、しもだて地域交流センター、参加人員(一般含む)53名

修了式 3月27日(土)、茨城県青少年会館、参加人員55名 今回の参加者は27市町村に及び全県から集まりました。

年齢は18歳から77歳まで幅広く、平均年齢48歳。女性が65%と多数でした。県では2004年度も引き続きこの講座の実施を決定。詳細が決まり次第、改めてお知らせします。



地域福祉プロモーター 第一期生修了式

諸般の事情により、次号(20号)は7月15日発行予定です。

情報掲示板(今月から来月にかけてのイベントなどを掲載しています)

イベント案内

「軽度発達障害児への支援のあり方」
学習会参加者募集

軽度発達障害の子どもたちや親、そして指導者、支援者が共に学びあう場の必要性から生まれた学習会です。これからも続けていきますので、今回参加できない方でも興味、関心のある方はお気軽にご連絡ください。

日時 5月16日(日)午後1時~4時
場所 茨城県健康科学センター3F中研修室(水戸市笠原町)

講師 関美紀子さん(臨床発達心理士)
鈴木恵美子さん(自閉症児親子教室指導員)
木村裕子さん(託児ルーム ひまわりのお家園長)

資料代 1,000円
託児申込 先着20名
(ひまわりのお家 Tel 029-243-9213)

問い合わせ Fax 029-244-2366(菅原さん)
E-mail: BYM00211@nifty.ne.jp(鈴木さん)
現場からのメッセージ「不適切な養育を受けた子どもたちの成長への援助について」~私たちは施設の新生に向けてどのように取り組んだのか~

2002年、児童養護施設・筑波愛児園で職員による児童への体罰事件が発覚。事件後施設長に就任されて以来、園の新生に取り組んでこられた黒田さんが、子どもへの関わり方、職員体制の土台作りなど、施設をいかに作り変えていくのか、愛児園の変化していく日々をお話くださいます。幼児から思春期の子どもまで、現に子どもを育てているお母さんやお父さんを元気づけ、子育てのヒントを与えてくれる話題が提供されます。

日時 5月22日(土)午後1時半~3時半(受付30分前)

場所 水戸市福祉ボランティア会館(ミオス内)大研修室

講師 黒田邦夫さん(児童養護施設 筑波愛児園園長)

資料代 500円
*託児あります。

問い合わせ いばらき子ども虐待防止ネットワーク「あい」事務局(月・水 午後1時~5時)

Tel&Fax 029-305-7690

E-mail: network-i@ams.odn.ne.jp

第7回日本列島縦断講演会 引きこもり体験を生かす再出発

「引きこもった経験は、きつとプラスにできる」そう信じて、私たちは福祉、飲食、IT関連、地域サービス、農業、海外での異文化交流に根ざしたさまざまな事業に取り組み始めました。再出発について引きこもりだった私たちが語ります。

日時 5月28日(金)午後6時半~8時半
場所 日立シビックセンター(401号室)

日時 5月29日(土)午後2時~4時
場所 水戸市民会館(101、102号室)

日時 5月30日(日)午後2時~4時

本紙常備施設・お店

- ハモナカフェ(Tel029-871-2157) 水戸芸術館(Tel029-227-8111) 水戸カトリック教会(Tel029-221-3976) ギャラリー「街かど美術館」(Tel0294-72-8888) 自然食レストラン「パンクン」(Tel0293-42-1818) 常陸太田生涯学習センター(Tel0294-72-8888) カフェ「ピアノシモ」(Tel029-255-3777) 自然食品「イーハトーブの森」(Tel090-9933-9236) こどもとおとなの学校「恵藍舎」(Tel029-246-9689) 県水戸生涯学習センター(Tel029-228-1313) 交流サルーンいばらき(Tel029-302-2160) 水戸市国際交流センター(Tel029-221-1800) 水戸市福祉ボランティア会館(Tel029-309-4141) まちの駅みと(Tel029-302-3100) 菜食カフェレストラン「Ritz'n(りっつん)」(Tel029-856-0009) つくば市民活動センター(Tel029-855-1171) 鹿嶋市立中央図書館(Tel0299-83-2510) 龍ヶ崎市市民活動センター(Tel0297-63-0030) 守谷市民活動支援センター(Tel0297-46-3370) 下館市立図書館(Tel0296-24-3530) 県西生涯学習センター(Tel0296-24-1151) 県南生涯学習センター(Tel029-826-1101) 県立図書館(Tel029-221-5569) 水戸市立中央図書館(Tel029-226-3951) 水戸市立西部図書館(Tel029-255-5651) 水戸市立東部図書館(Tel029-248-4051) まちかど情報センター(Tel0299-27-5171) 水戸市男女文化センターびよんど(Tel029-226-3161) ロイヤルフィットネスクラブ(Tel029-273-3281) 阿見町町民活動センター(Tel029-888-2051) 伊奈町立図書館(Tel0297-58-3710) コープフレール水戸店(Tel029-246-1421) 学びの場「あがべ」(Tel029-221-8836)

あとがき

NPO起業科13名が集まり3ヶ月の職業訓練スタート。これも共育かな(ハリー) 理想と現実、期待と現実、希望と現実...(くま) チケット売れない、まいった(奏) やっぱり演劇仕込みの女優はこわいな(公威) 笑いと長寿の国のパスポート(雪) 今年も再会、来年もきつときれいだね、黄色いバラ(か) 死んだらつらくないけど、うれしくもないんだぜ(い)

NPO 一日体験 レポート



「オオムラサキの棲む里山作り」の体験作業に初めて参加させていただきました。この体験は、私を約50年前の時代へタイムスリップさせるものでした。子供の頃の行動範囲には限界がありますが、雑木林は、晩秋から初冬にかけて、堆肥を作るため枯葉集め、夏は家畜の餌に下草刈りと雑木林とかかわってきましたが、そこで、多くの生き物たちを育てていることなど、知る由もありませんでした。

今回、代表の田中さんから近年開発に伴って雑木林が失われ、また人が里山にかかわらなくなったことによる荒廃により、オオムラサキの数が激減している。更に、つくば市はここ数年の間に常磐新線や圏央道などの開発が進み、里山の景観が失われつつある。その為、オオムラサキを目にするのがほとんどなくなってしまった。そこで、保全可能な地域の里山の手入れをし、オオムラサキをはじめとする多くの生き物たちの棲める環境づくりの為、昨年より雑木林の手入れの活動を続けていくことを伺いました。

雑木林の手入れが済んだら、オオムラサキが生きるためのエノキを植えます。鳥名小学校では近隣の開発予定林から保護したオオムラサキの幼虫を飼育中です。成長したオオムラサキは、もとの開発予定林の近くに放されます。オオムラサキたちが現在手入れをしている雑木林へと移動してくるように...。「つくば環境フォーラム」では、そんな願いを込めて、この活動を行っているようです。

私も下草刈りに精をだし、若葉の映える林の中で気持ちよい汗をかかせていただきました。失われつつある里山を自然豊かな里山に向けて、根気よく努力している「つくば環境フォーラム」の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。私も、これを機に、微力ではありますが里山にかかわっていかうと決心した次第です。今回は大変お世話になりました。

NPO法人つくば環境フォーラム
〒305-0022 つくば市吉瀬1876-1
Tel&Fax 029-863-5151



(文 須能 馨 写真 和泉 孝 茨城NPOセンター・ commons)

徒歩10分
問い合わせ まちかど情報センター
Tel0299-27-5171

E-mail: himawari@saturn.plala.or.jp
オオムラサキの棲む里山づくり

つくば環境フォーラムでは、多様な生き物が棲む里山の保全を進めるため、この事業に取り組んでいます。森の手入れなどの里山づくりに継続的にかかわってくださる方を募集しています。堆肥作り・森の生き物や植物の調査や観察・オオムラサキの保護活動などに興味のある方の参加もお待ちしています。
日時 毎月第4土曜日 午前9時半~正午
場所 つくば市下平塚の雑木林
参加費 200円~300円

問い合わせ NPO法人つくば環境フォーラム
Tel&Fax 029-863-5151
E-mail: tef298@lime.ocn.ne.jp
http://www12.ocn.ne.jp/~tef298/

五軒町 だより

事務所誌にかえて

花の家



見慣れた事務所前の風景がこの頃少し変わりました。蔦に囲まれていた向かいの家の壁に、いつの間にか可愛らしい白い花がいっぱい咲き乱れています。何という花ですか?

その家には奥さまが好きな植物がいつも咲き繁っています。この白い花はモッコウバラというバラの一種のようで、蔓状の枝を壁に沿わせるように、結わえたりして仕立てているそうです。めずらしがっている私にご主人が枝を一本折ってくださいました。悪い事をしてしまったと思いつつ、可愛いバラの優しい香りに素直に感激。そしてそんなお向かいさんとのやりとりでふと心が和むのでした。

(文と絵 草間多佳子)